

2026 ピースアクション in ヒロシマ

参加者レポート



pal*system
パルシステム千葉

ピースアクション in ヒロシマ に参加して



3日間、大変お世話になりました。

「原爆の子の像」の内部



原爆死没者慰霊碑 (広島平和都市記念碑)

「安らかに眠って下さい
過ちは繰返しませぬから」

この碑文は、すべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰返さないことを誓う言葉であり、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が刻まれているもの。

碑文の意味も正確に伝えるため、平和の池の中に、多言語（日本語、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、中国語（簡体字）、インドネシア語）での説明板を設置し。

塔の内部には、年少少女たちの気持ちに感動したノーベル物理学賞受賞者である湯川秀樹博士の筆による「千羽鶴」に、地に空に平和の文庫が彫られた鐘が、その下に金色の鶴が風鈴のように音を立てている。



これはぼくらの叫びです
これは私たちの祈りです
世界に平和を
きずくための

一人の被爆少女の死

佐々木 禎子さん

被爆少女の死

Death of an A-bombed Girl

襲撃から10年後の夏、
一人の少女が亡くなりました。
少女の名は佐々木 禎子。
2歳で被爆し、その惨状に感嘆しましたが、
小学校6年生の時に突然白血病を発症。
闘病生活の最中に突然亡くなりました。
8か月間の闘病生活の後、
12歳の短い生涯を終えました。

One full day 10 years after the atomic bombing, a young girl died. Her name was Sasaki Sadako. She experienced the bombing at the age of two, but grew up strong and healthy. Then, in the 6th grade, she suddenly developed leukemia. She hoped to recover, but her wish was not granted. After an eight-month battle with the disease, Sadako died at the tender age of 12.

1945

被爆

The Atomic Bombing

1945年8月6日の朝、広島市に原子爆弾が落とされました。佐々木 禎子もその時、2歳の年齢で被爆しました。その惨状に感嘆しましたが、小学校6年生の時に突然白血病を発症。闘病生活の最中に突然亡くなりました。8か月間の闘病生活の後、12歳の短い生涯を終えました。

On August 6, 1945, the atomic bomb was dropped on Hiroshima. Sadako was 2 years old at the time. She was shocked by the bombing, but she grew up healthy. In the 6th grade, she suddenly developed leukemia. She hoped to recover, but her wish was not granted. After an eight-month battle with the disease, Sadako died at the tender age of 12.

入院生活

Staying at the hospital

佐々木 禎子は、白血病を発症し、入院しました。闘病生活を送りましたが、ついに亡くなりました。彼女の死は、多くの人々に衝撃を与えました。彼女の死は、多くの人々に衝撃を与えました。彼女の死は、多くの人々に衝撃を与えました。

Sadako was diagnosed with leukemia and stayed in the hospital. She fought the disease, but eventually passed away. Her death shocked many people. Her death shocked many people. Her death shocked many people.

1955

佐々木 禎子の死

Sadako's death

1955年、佐々木 禎子は12歳の短い生涯を終えました。彼女の死は、多くの人々に衝撃を与えました。彼女の死は、多くの人々に衝撃を与えました。彼女の死は、多くの人々に衝撃を与えました。

In 1955, Sadako ended her short life of 12 years. Her death shocked many people. Her death shocked many people. Her death shocked many people.

「原爆の子の像」の完成

Completion of the Children's Peace Monument

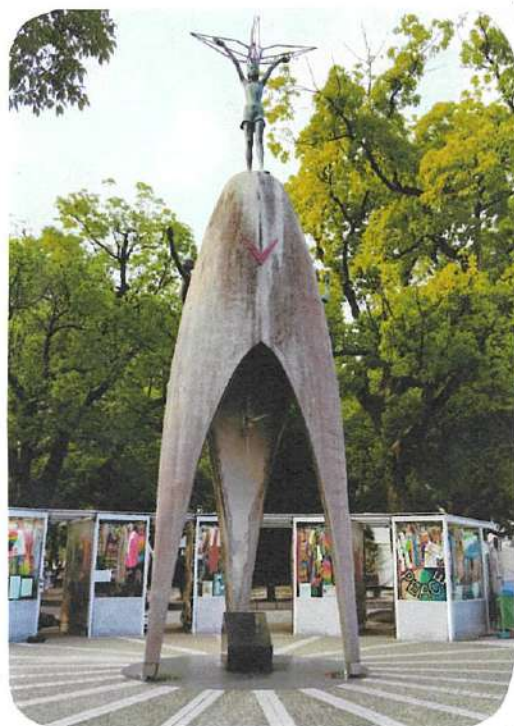
「原爆の子の像」は、佐々木 禎子の死をきっかけに、多くの人々によって完成されました。この像は、平和を築くための象徴として、世界中に知られています。

The Children's Peace Monument was completed thanks to the death of Sadako. This monument is a symbol of peace, known around the world.

2歳で被爆し、その後元気に成長しましたが、小学6年生の時に、突然白血病を発症。

8か月間の闘病生活の後、

12歳の短い生涯を終えました。



禎子さんの死をきっかけに、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め、平和を築くための像をつくろうという運動が始まり、全国からの募金で平和記念公園内に

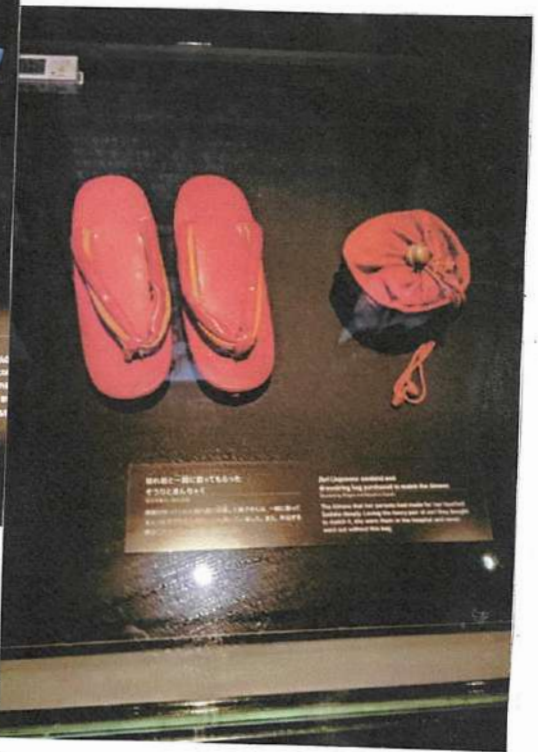
原爆の子の像

が完成しました。

その後、この話は世界に広がり、今も「原爆の子の像」には日本国内をはじめ世界各国から折り鶴が捧げられ、その数は年間約14万羽、重さにして約10トンにもなります。



4羽鶴



禎子さんが折った鶴

8月の終りころから病状は急激に悪化。
上半身を起こせなくなった禎子さんは、
寝たままに鶴を折り続けました。

1955年8月初旬、入院中に「折鶴
を4羽折ると願い事が叶う」という言い伝え
を知った禎子さんは、薬の匂いや病気の身回り
にある紙の鶴を折り始めました。ひと月足らず
で、1,000羽を折り上げたと言われています。



両親が晴れ着と一緒に買った
ぞうりをはきたくて



炭から逃れる人々の上に
黒い米がけのある雨が降りました。



傷ついた人々は雨に打たれながら
乾いたのびを潤すため雨粒を
飲み込みました。
この雨は放射能を帯びていました。

〈黒い雨の中を逃げる人〉
黒い雨が原爆投下後降った。
雨に油がまじった様子は、ぬるぬるしたものが身体中
空は黒雲におおわれ、
逃げまどう人に、不気味な不安をもたらした。

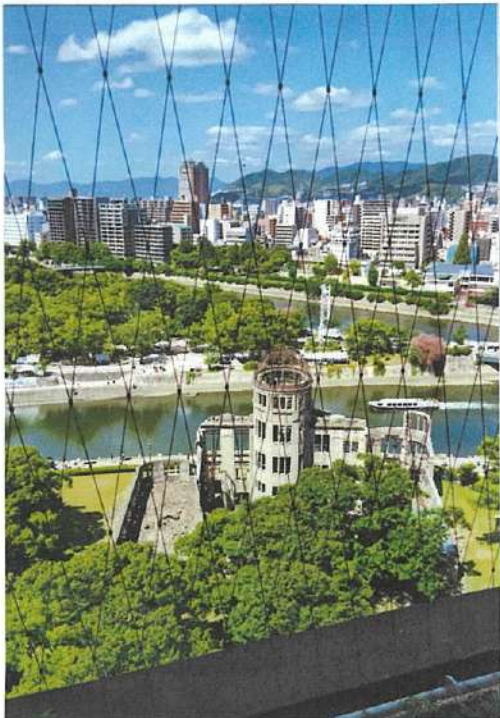
まとめ



私は、広島に初めて訪れたので、平和記念資料館を見学する
のも、もちろん 予定でした。聞いていた通り、それ以上の 展示内容で
言葉が出ませんでした。

食べられなかった 中身まで丸焦げ
の弁当箱。当時 着用されて
いた衣服（黒い雨の染みや
血液のあとなど残っている）、
手紙、遺品など 広島で
普通に暮らしていた人々の
息づかいが 聞こえてくるようで、

胸がしめつけられました。写真や絵は、当たり前 的日常を一瞬で
奪った 原爆の 恐ろしさ、人々の無念、「死にたくない」「生きたい」という
強い思い、「痛み」を超えた 恐怖も感じました。一緒に見学した
息子も 静かに 回り、「こわい」と ポツリ つぶやいていました。人間が人間ではない姿、正直な感想だと
思いました。



この貴重な体験を、誰かに、少しでも多くの人に伝えたいと
思いますが、やはり 現地で 見て聞くことが 何よりだと思っています。
現在の 復興している 元気な広島を 3日間 過ごし、路面電車に
乗ったり 美味しい食べ物に出会ったり、親切な人との 触れ合いがあったり
し、広島に対して 親近感や 好きさという 気持ちを持ったことで、
原爆に対する 思いも 大きくなりました。

私たち親子だけで 旅行しても、このような 体験は できませんでしたが、
期間中、常に 気にかけて 温かい言葉もかけて下さった パリシステム千葉の 皆さ
ら組合員の 皆さんに 感謝しています。

この活動が これから も ずっと 続くことが、平和活動への 大きな
貢献になると 思います。 本当に ありがとうございます。

ピースアクション in ヒロシマ レポート

室内 石碑めぐり

平和の時計 土塔

365日の中で8月6日だけ
音がならない。

8月6日以外の日には
8時15分になる。

原火暴ドームで、
一週間たしな
バウムクーヘンが
売られた。

1915 広島県物産陳列館

↓

1933 広島県産業奨励館

8月6日 8時15分

原火暴が落とされる



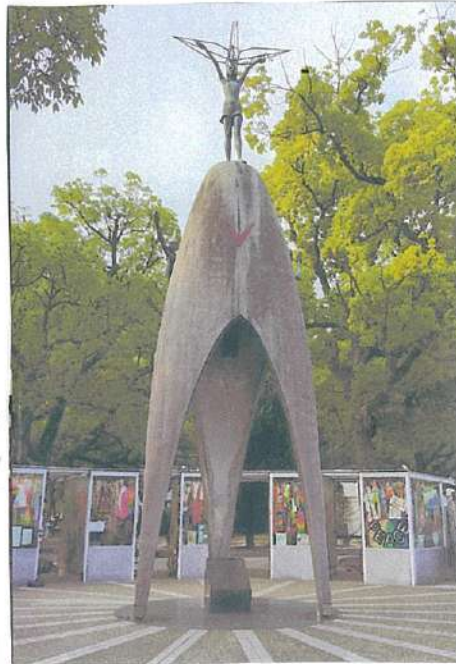
原火暴ドーム



石串めぐり

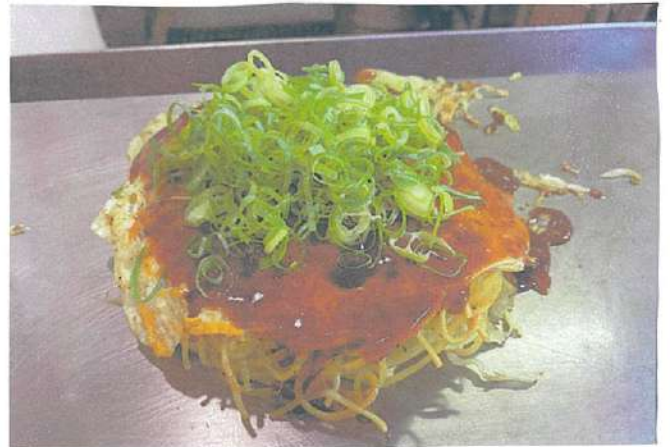
石串めぐりではその建物についてたくさん話してくれた。一番右の写真にある火は世界から原火暴がなくなったとき一度けしてもういちど火をつけるそうです。

原爆の子の像の場所にあるつるがらでも多くて迫力がすごかった。



広島焼

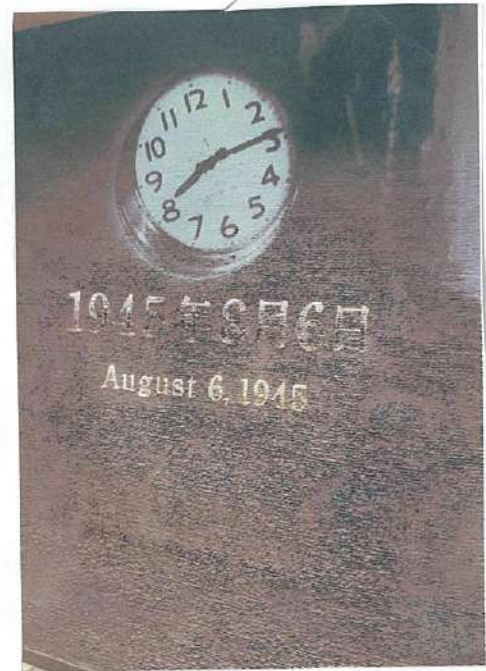
最初はとんな味か？
するが気になってたべたり
思ったと上においしく
てびっくりした。
またいつか食べたいと思った



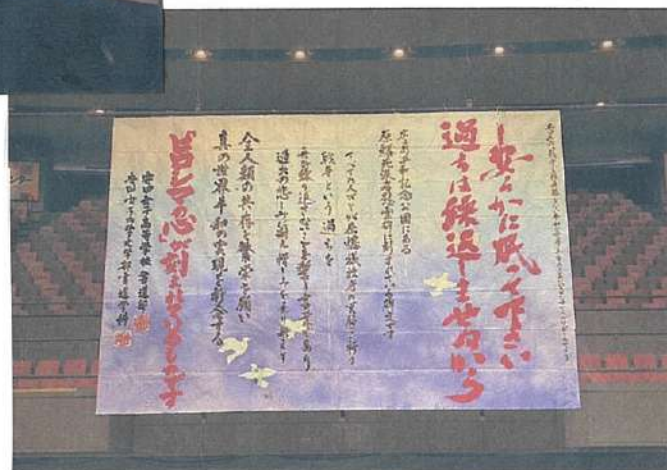
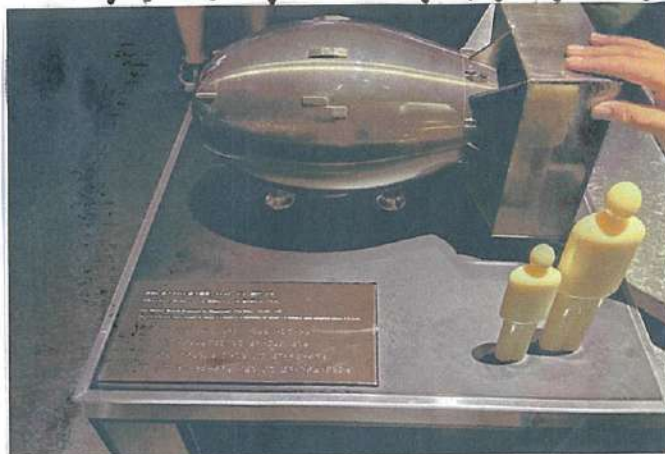
資料館見学とその他

見学して学んだことは、原爆直後のようにすかすかしくみかかれています。とても怖かったです。

他に、いろいろな人の服などの物も見えたのでさらに怖かったです。



リトルボーイファットマン



まとめ

資料館などへ行っていろいろなことを学んだので、それをみんなにおしえてあげたい。



たいてい核兵器がない世界にしたい。他にもたくさん場所に行きたいのでまた来たいと思いました。

「爆、い、え。」

ピースアクション in ヒロシマ 参加レポート

日程：2026 年 8 月 4 日～8 月 6 日



【2026 年 平和祈念式】

1. 参加目的と動機：画面越しの知識から「現地の体感」へ

毎年 8 月 6 日にテレビを通じて観ていた平和祈念式の雰囲気や、画面越しではなく現地で直に感じてみたいと思ったことが、今回の参加の直接的なきっかけです。

また、これまで教科書やニュースで目にしてきた原爆ドームや平和記念資料館を自ら訪れ、被爆の実相に触れることで、どこか抽象的に捉えていた歴史を自分自身の体験として受け止め直したいと考え、2026 年 8 月 4 日から 6 日にかけて開催された「ピースアクション in ヒロシマ」へ参加いたしました。

2. 碑巡りとガイドボランティアからの学び

プログラムの中で最も強く心を動かされたのは、碑巡りを担当してくださったガイドボランティアの方のお話でした。

ガイドを務められた方は被爆 2 世であり、ご自身のお父様が被爆者であったそうです。しかしお父様は、「2 人の娘が将来、社会で差別や偏見に晒されるのではないか」という恐れから、晩年までご自身が被爆者であることを伏せて生きてこられました。

これまで書籍などで「被爆者への差別」という言葉を目にしたことはありました。しかし現実感が無かったものが、目の前で語られる生の言葉にそれが単なる過去の記録ではなく、生身の人間の人生を長年縛り続けてきた凄惨な現実としてはっきりと意識されました。原爆の惨禍は爆発の瞬間だけでなく、戦後何十年もの間にわたり、人々の生き方や家族関係にまで深い影を落とし続けていたのだと実感いたしました。



語り部への質問と気づき

気になって「被爆 2 世でこのように語り部活動をされている方は多いのですか」と質問したところ、「決してそんなことはありません」という答えが返ってきました。

世間からの偏見というリスクが今なお残る中で、自らのルーツや体験を明かして活動することには、計り知れない葛藤が存在します。それでも「この活動は父が喜んでくれているのではと思っています」と笑顔で答えてくださったのがとても印象的でした。

この経験を経て、実名を掲げて被害の実相を訴え続けてこられた方々の強い覚悟と勇氣に、心からの敬意を抱かずにはられませんでした。

3. 式典参列と資料館見学：一瞬で奪われた日常と、現代の私たちへの課題

平和記念資料館では、展示された遺品や被災写真の前に立ち、一瞬にして奪われた日常の重みと圧倒的な被害の大きさを目の当たりにしました。

そして8月6日の午前8時15分、平和記念式典にて多くの参列者とともに黙とうを捧げました。会場で祈りを捧げた際、テレビの画面越しでは伝わらない空気感と、想像以上に世界中から集まった人々の祈りの熱量を全身で感じ取りました。

この式典ぐらいではないでしょうか。今現実には戦争が行われている当事国がその状況を超えて参加してしまいました。平和を願う取り組みは遠い過去を悼む行事ではなく、今を生きる私たち全員の未来に関わる切実な課題であると確信いたしました。

4. まとめと今後のアクション：「知っている」から「伝えていく」へ

今回の参加を通じて、「知識として知っているつもりでいること」と、「現地で当事者の思いを直接聴くこと」の間には大きな差があることを学びました。

現地で受け取った被爆の実相や、リスクを負ってでも語り継ごうとする方々の思いを、一時の体験で終わらせてはならないと感じています。被爆者の高齢化が進む今、これからは私たちがその記憶を受け継ぎ、家族や周囲の友人へ自分の言葉で伝えていく役割を果たしていきたいと考えました。



原爆を知らない私たちは何をどのように継承するのか

| 知っていたつもりだったが、知らなかった

広島に行く前に私が持っていた知識はせいぜい教科書や歴史漫画などで済んでしまう程度のものでしかありませんでした。単語として覚えているものが多く「すごい爆発で何万人もの人が犠牲になったんだ」といったことごとく他人ごとと考えているものでした。

| 実際に訪れて

実際に残る何とも言えない痛ましい碑を見ると、一つ一つに単語でしかなかった知識に間の物語が加わり一つの物語として成立したような気がしました。

| 平和記念資料館



平和記念資料館には、教科書には載っていない、当時の被爆の残酷さを伝える資料が数多く残されていました。また、展示されている一つ一つの資料には、そこに関わった人の人生という物語がありました。ただ「原爆によって多くの人が犠牲になった」と知識として捉えるのではなく、それぞれの資料の背景にある一人ひとりの人生を想像しながら見ることで、原爆という出来事をより身近に感じることができました。

| 原爆死没者慰霊碑



原爆死没者慰霊碑に刻まれている「安らかにお眠りください。過ちは繰り返させぬから」という言葉について、その解釈をめぐって論争が起きていたことを初めて知りました。特に「過ちは繰り返させぬから」という言葉を、碑の前で祈る一人ひとりを含む、国籍や人種に関係なく平和を願うすべての人々を指すものとして捉える解釈があることに、とても興味を持ちました。原爆の被害を一つの国や人々だけの問題として捉えるのではなく、平和を願う全人類に向けた言葉として考えられていることが印象に残りました。

| 原爆ドーム



原爆ドームは、写真で見ていたより損傷が激しく、「なぜこの建物が今も残っているのだろう」と思うほどでした。このように感じられたのは、実際にその場を訪れたからこそだと思います。また、原爆ドームがかつて「広島県物産陳列館」という広島の中心的な建物であったことも訪れるまで知りませんでした。現在の姿だけでなく、かつては多くの人が行き交いにぎわっていた場所だったことを知ることで、原爆が街や人々の日常を一瞬にして奪ったことをより実感することげできました。

| 広島で感じた継承の意味

今回、被爆者の方から直接お話を伺い、被爆者本人から話を聞くことのできる時間が、本当に限られているのだと実感しました。被爆者の平均年齢が上がり続ける一方で、原爆という出来事は、その被害の残酷さだけでなく、第二次世界大戦という複雑な背景もあり、深く理解するには相応の年齢や知識が必要だと思います。また、現在も生きている被爆者の方の中には、つらい記憶を思い出したくないという理由から、体験を語らない方もいます。

私は、なぜ人間が歴史を学ぶのかという問いに対する答えは、「同じ過去を繰り返さないため」だと考えています。人間は、ときに過去の過ちを繰り返してしまう生き物です。しかし、歴史を学び、過去に何が起きたのかを知ることで、その過ちを繰り返すことを少しでも防ぐことができるのではないのでしょうか。原爆は、被爆者の方が「生き地獄」と表現するほど、想像を絶する経験だったのだと思います。そのようなつらい記憶を抱えながらも、「後世に伝える」と決めて私たちに話してくださった方の思いを、私たちは受け継いでいかなければならないのだと感じました。二度と同じ過ちを繰り返さず、同じような悲しい思いをする人を一人でも減らすためにも、被爆の記憶を継承していくことは、私たちの世代に必要なことなのだと思います。

|何をどのようにして受け継いでいくのか

私たちは、被爆者の方から直接話を聞いた者として、教科書などには載っていない一人ひとりの体験を、できる限り自分ごととして受け止め、伝えていく責任があると思います。原爆が起きた年月日や被害の規模など、基本的な情報は教科書や資料を調べれば知ることができます。しかし、実際に被爆した方がどのような経験をし、そのとき何を思ったのかということは、教科書の数行だけでは知ることができません。だからこそ私たちが伝えるべきなのは、被爆者の方から直接伺った、想像を絶する体験と、その中で感じた思いです。そして、それを単に聞いた話として伝えるのではなく、自分自身の中に落とし込み、自分が何を感じ、何を考えたのかも含めて伝えていくことが、原爆の記憶の風化を少しでも防ぐことにつながるのではないかと思います。

|私たちはどのように伝承をしていくのか

私たちは、どのようにすれば原爆の記憶を次世代へ分かりやすく伝えられるのか、その方法について考えていかなければなりません。その一つの手段として、生成AIを活用することもできると思います。しかし現在、生成AIを使って原爆の記憶を伝えることについては、注意が必要だという指摘もあります。では生成AIにはどのような問題があるのでしょうか？

|生成AIによる再現動画

私たちは、どのようにすれば原爆の記憶を次世代へ分かりやすく伝えられるのか、その方法について考えていかなければなりません。その一つの手段として、生成AIを活用することもできると思います。しかし現在、生成AIを使って原爆の記憶を伝えることについては、注意が必要だという指摘もあります。では生成AIにはどのような問題があるのでしょうか？



一つ目は、爆風の描かれ方です。動画では、原爆ドームに横から炎や爆風が押し寄せているように描かれています。しかし、広島に投下された原爆は地上約600mの上空で爆発しました。そのため、爆心地付近では上空から強い爆風による圧力が加わりました。原爆ドームは、真上からの爆風に対して耐力の弱い屋根などが大きく損傷した一方、厚く造られていた側面の壁は完全には押しつぶされず、倒壊を免れました。これが、現在の原爆ドームがそのような形で残っている理由の一つです。

また、動画では原爆の爆発と同時に炎が大きく広がり、すぐに大規模な火災が起こったように描かれています。しかし、原爆の爆発によって放出された強烈な熱線は目で直接見ることができないものではありません。また、火災も爆発と同時に街全体で発生したわけではなく、建物の倒壊などによって生じた小さな火元が次第に広がり、大規模な火災へと発展していきました。そのため、動画のように爆発直後から大火災が広がる描写は、実際の被爆の状況とは異なります。

このように、一見すると実際の原爆投下を再現したように見える動画でも、細かく見ていくと、被爆の実相とは異なる描写が含まれていることがあります。生成AIは、文章や画像から短時間で映像を作ることができ、原爆について知らない人が興味を持つきっかけにもなります。しかしその一方で、実際には存在しなかった光景を、あたかも事実であるかのように表現できてしまいます。特に原爆のように、実際に経験した人の記憶をもとに伝えていかなければならない出来事では、こうした事実と異なる描写が広がることは大きな問題だと思います。「分かりやすく伝える」ために、「多少の事実を捻じ曲げる」ことがあってはならないと思います。

では、私たちはこのような問題とどのように向き合っていけばよいのでしょうか。私は、生成AIそのものを使うことが悪いわけではないと思います。映像を一つ一つ人の手で制作するには、多くの時間と労力が必要ですが、生成AIを活用することで、より多くの人に原爆について知ってもらうきっかけを作ることができます。だからこそ、使い方に注意すれば、原爆の記憶を風化させないための有効な手段になり得ると思います。

例えば、生成AIに事実とは異なる場面を作らせるのではなく、実際に被爆者の方から伺った体験談をもとに、証言の内容を補助的に映像化するという使い方は、原爆の継承に適しているのではないかと考えました。その際にも、制作した映像を資料や証言と照らし合わせ、事実と異なる部分がないかを確認することが必要です。

生成AIを原爆の継承に利用するのであれば、AIが作った映像だけを見て「分かった」と思うのではなく、実際の資料や被爆者の証言に触れることが大切です。生成AIを「被爆体験そのものを再現するもの」ではなく、「原爆について知り、実際の資料や証言に触れるきっかけ」として活用することが、これからの原爆の記憶の継承につながるのではないのでしょうか。

|参考文献

<https://www.instagram.com/reel/DY7THfehCYS/>

<https://news.web.nhk.com/newsweb/na/na-k10015198361000>

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/faq/atomicbomb-peace/1001613/1028187/1002370.html>

ピースアクション in ヒロシマ レポート

2026/8/4～6 備忘録として

参加の動機

娘たち（小5、小2）にNHK朝ドラがきっかけで戦争のことを話す機会が増えてきたこともあり、実際にその土地に赴いて学ぶ機会があればその方が良いと思っていたところ、このイベントを知り応募させていただいた。

私は20代の頃に広島一人旅をしたが、当時は平和記念資料館を出てしばらくの間動けなくなり、「ヒロシマ」を直視できぬまま宮島に出掛けたことを思い出す。それから20年、子どもが生まれ暮らしが大きく変わったこともあり、この国や地球の今後を憂う気持ちが大きくなっている今、今回のイベントに参加することで何かを得たいという気持ちがあった。

参加後の気持ち

- ・「核兵器は地球から一切無くなるべきもの」という強い気持ち→被害を受けた全ての人たちへ「過ちは繰り返させぬから」という誓い
- ・戦後にも多くの不幸が存在しなお続けている、戦争は終わっていない→もっと知る努力をすべきだったと後悔
- ・平和は願うものではなく不断の努力で行動し続けたいと得られないものである→自分事として行動、憲法9条を守らねば

印象に残った事柄

＜碑めぐり：新谷さん、生協広島の方からのお話＞

「平和の池」→水を求めて亡くなった犠牲者。何が原因か未だはっきりしていないが、当時水を飲ませたことで亡くなられた方がいたそうで、それ以降怖くて水をあげられずそのまま亡くなった方もいた。水を飲ませても飲ませられなくても、自らのせいで人を死なせてしまったと長きにわたり後悔の念を背負い、自らの体験を話すことができなかった方達がたくさんいらしたとお話。

＜被爆者：田中さんのお話＞

最初に「核時代人としてお話します」とおっしゃられズシンときた。多くの悲しさ、悔しさ、虚しさ、憤りを超え、核兵器廃絶のための尽力に気高さを感じた。「自分の置かれている状況の中で出来る範囲で自分の頭で考え行動してみて」との言葉が印象に残った。

＜平和記念資料館＞

キノコ雲下で何があったのかを知る。建物疎開で被害にあった子どもたちの写真や名前、家族のストーリーがあり、よりイメージできたことで重い気持ち。きのこ会や原爆後遺症のせいで多くの苦勞をし本人が亡くなったことで家族はやっと解放されたという事実にショック。

＜虹のひろば＞

多くの若い力に感動。平和首長会議ユース派遣に参加の学生は、政治家になぜ核軍縮が難しいのかインタビューし反対側の意見にも耳を傾け、その上で自分たちの主張をどう実現していけばいいの冷静だった。また、紺野さんの朗読には涙が出た。8月5日夜、星を見ながらあんな事を話していた子がいたのかと思うとやり切れない。「犬死」にさせないという母の覚悟が報われなければいけない。

＜平和祈念式典への参加＞

あの空気感や景色、セミの鳴き声、目や耳に入ってきたものを忘れたくないと感じた。あの場にいるすべての人が「平和」を望んでいるのに、なぜそのゴールがこんなにも長く険しい道のりなのか。大国は自国、ひいては自分さえよければよいという考えになっていないか。

今後の自身のアクションプラン

- ① 自己発信：今回の広島で感じたことを共有→夫、下の娘、母、友人家族Hさん、ご近所Nさん、職場SさんとNさん
- ② 学習：憲法や憲法改正をめぐる動き、核軍縮に反対の人たちの主張を知る努力
- ③ 平和活動：平和行進やデモ、署名活動に参加する

8/4 ~ 7/6

作者

ピースアクションinヒロシマ

に参加して
わかったこと!

く平和の時計とう>

- なるのは 8/6 以外
- ならないのは 8/6 だけ

なる時間: AM 8:15

げんばくドームが
ぼろんされている。

<平和の火I>

。雨がふっても、
風がふいても、
きえない。



だけど、
かきべいきが

世界中からなく
なったら

一度消し、
もう一度、ともす。

<平和のかね>

- だれでも
なうせる
- こっきょうのない、
世界地図が
かかっている。

<げんばくドーム>

- 1915年 げんばくドーム 完成
↑
作ったのは、**チェコ人**

- 年によって、名前がちがう

1953年 広島県産業しょうれいかん

1995年 広島県物産しょうれいかん

- どうやら、ぼろんすることが
できたか...

当時のしちやう: ぼろんするのにお金がかかる。
あ、そういえば
全国のおみなさんに
ぼろんをあつめれば。

<かんこうとして、 きていた人も>

- げんばくのとき、かんこうで
かんこう人がきていた。
- ↑その人たちのあはかは、
いっぱんの人たちと
少しちがう。

うらに
つつく

かくへいきを
最もタタ
もっている国
ベスト2

1 ロシア 5459

2 アメリカ 5177

<とうげさんきちさん>

。詩 ⇒ 父をかえせ
母をかえせ...

。すきな花

マーマイト

げんばくがおちた時、
子どもたちはたこものまがい

をしていた。

「そのとき」

空の上でピカッと ひかり

げんばくがおち、
ほとんどの子どもが

そ<レ

<1945年 8月7日>

。8月7日ころに、
人たちがしたいを
しやりにしている。

。おうちがどこにあるか
わからない。

日本ひだん協が
発行した本

「ひばくしから
あなたに」

。ユニセフからミルクを
無しようといきょうされた。

。お金をもらうために、
くつみがきの少年が
いっはいいいた。

。ひばく者の人たちは
いろいろ差別され、
「ひばく者」ということを
かかしていた。



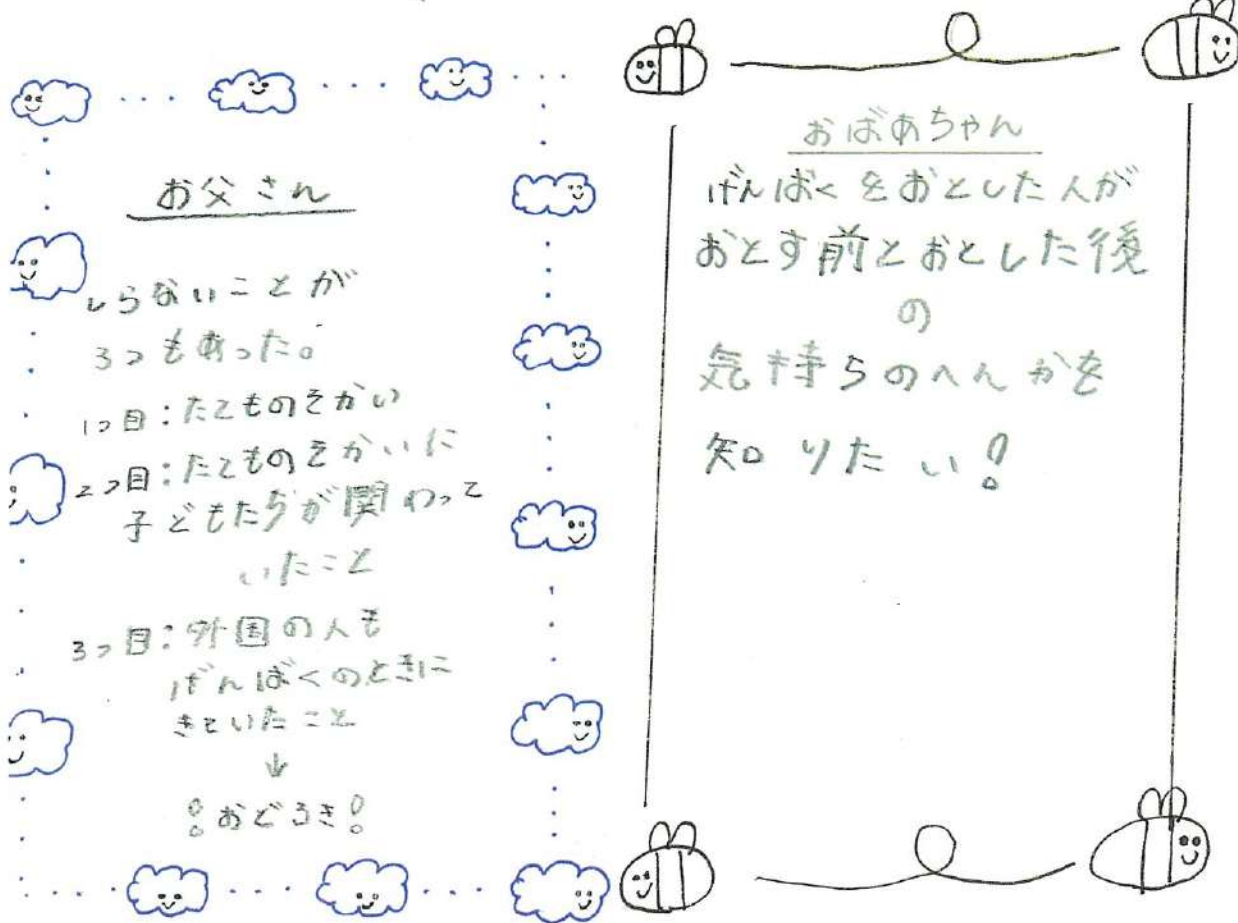
2023年 8月 に
ひばく者の「田中さとしさん」が
ひばくのしょう言を
かたりはじめた。

ひばく者の田中さとしさんから

今の時代に

いかりをもつ

< ヒロシマで学んだことを伝えよう >



< かんそう >

- 。 しりょう食官でこわいのも
あったけど、かくへいきを1束うと、
物がやけてなくなっちゃったソ、
人がやけたソ、亡くなっちゃったり、
それに、大ケがもしちゃうから
かくへいきはいやだなと
思いました。そして、
かくへいきが世界中から
なくなっちゃほしいなと思い
ました。

2026 ピースアクションinヒロシマに参加して

1. はじめに(参加のきっかけ)

「娘が戦争とは、原子爆弾とは何か当時の広島の様子を肌で感じることに」

12歳の娘ならどんな思いを持つのだろうと思い、現地に赴き感じるものがあれば、大きな収穫になるのではないかと考えました。彼女ならではの思いをレポートにまとめるのもきっと有意義な時間になると信じ、参加を決めました。

2. 現地で感じたこと

「室内碑めぐり、被爆の証言」

平和ガイドさんの講演で、まずは座学。81年前この地で何が起きたのかの説明。全国から集まった参加者は様々な年齢層でどのようにお話しされるのか楽しみでした。優しい語り口でわかりやすく、子ども達が熱心にメモを取っている姿が印象的でした。

被爆の証言では、被爆者であるご本人の言葉から、空腹、原爆孤児、差別、手帳、などたくさんの強いキーワードを耳にし、娘には難しい内容もあったようですが、改めて振り返るととても心に響く時間になりました。直接話が聞けることに感謝して、聞いてからが行動の出発点であるとの言葉、深く心に刻まれました。

「平和記念公園の碑めぐり」

実際に公園内を歩き、ガイドさんの説明のもと歩いてみると、室内碑めぐりの説明と繋がってこの場で何が起こったのか、臨場感にあふれていました。ガイドさんによって語り口や資料が異なり、興味深く感じました。建物疎開で多くの子どもの命が失われた事実、引き取り手のない遺骨のお墓、捕虜となった外国人の慰霊碑、平和の灯、近くを流れる川にも深く関連があったとは、改めて詳しく学ぼうと今回参加したからこそ理解が深まりました。



「平和記念資料館見学」

目を伏せたくないような惨状の記録、展示や写真に、毎回新しい学びが得られる資料館。リアリティの追求と見やすさのバランスでどう展示していくべきなのか議論が交わされていると報道番組の特集で見ました。現物をありのまま見せ続けるのでは、衝撃が大きすぎて心が追いつかない人が多く出てきてしまうことは、容易に想像できます。

数年前の改修を経てなのか誰が見ても理解しやすく、導入からジオラマで広島の子供の街の様子が展示されていて、空から原爆が落ちる様子が生々しく伝わってきました。空の色、空気が何の前触れもなく、激変したといった印象でした。また、手話や点字、多国籍の言語表記など、たくさんの人に伝えるべく丁寧に作られていました。

「虹のひろば」

ステージではダンスや絵画、書道などの発表に圧倒されました。【星は見ている】の朗読中には、心のこもった語りにより物語の世界に引き込まれすぎた娘が耐えかねて退出。帰宅後、私は改めてYouTubeで振り返りました。父、母、子、様々な立場から考えさせられ、語り継ぐべき作品だなと強く感じました。

「平和記念式典見学」

モニター越しにも、ひしひしと伝わってくる厳粛な空気感。平和への願いを強く感じ、8月6日にこの場にいることの意味を考えさせられた時間でした。世界各国からの参列の多さにも驚き、資料には全て英語表記もあり世界に向けて平和を祈念するメッセージ性を強く感じました。



「おりづるタワー」

折り紙で鶴を折る、私が子どもの頃は必須だったような折り方。現代の子どもは折る機会もなく覚えていないようで驚きます。折り方だけでなく、こめられた意味を学び、平和を願って飛ばしたこと、誰かに語り継いでほしいなと思いました。

平和記念公園の隣にあるタワー、こちらは近代的で新旧が入り混じる街の雰囲気がより魅力的に感じました。



3. おわりに

毎年8月になると、戦争の特集をよく目にします。子どもの頃、むずかしいしこわいしまたか...と正直なところ感じていましたが、私の知識は断片的で浅いものだったと痛感しました。深く学ぶ機会がなかった現地広島との温度差を、現地の方々に触れてひしひしと感じ、それも学びになりました。81年経っても当事者の心の中では戦争は終わっていないこと、語っているのはほんの一部に過ぎないことを胸に刻み、私に何ができるか考えていきます。

平和記念公園に贈られた折り鶴を再生して製造したハンカチを購入しましたが、この売上金の一部が広島市の平和維持活動へ寄付されるとのこと。私も自然と参加していたことに驚き、嬉しかったです。そんな風に、細く長く協力していきたいなと思います。

娘が、今回は参加してみようと思った事、嬉しく思いました。現地では学ぼうとする気持ちを感じ、理解を深めようと努力している姿がありました。これも貴重な時間になりました。

この度の企画運営にあたり、携わってくださった全ての方に感謝申し上げます。猛暑の中の参加でになるため体調を気遣ってくださったり、たくさんのサポートのお陰で予定通りかつ快適な旅ができました。ありがとうございました。



平和な 世界を

被爆81年

「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現を！

～受け継ぎよう・未来につなげようヒロシマの心を～



戦争も核兵器も
ない世界へ

平和とよりよい生活のために

はじめに

去年お兄ちゃんが「ピースアクションinヒロシマ」に参加してすごく勉強になったと言って帰ってきました。私も広島のことについて知りたかったと思っていました。そのときに今年も「ピースアクションinヒロシマ」があることを聞いて参加を決めました。

室内石井めぐり

新谷美樹子さん

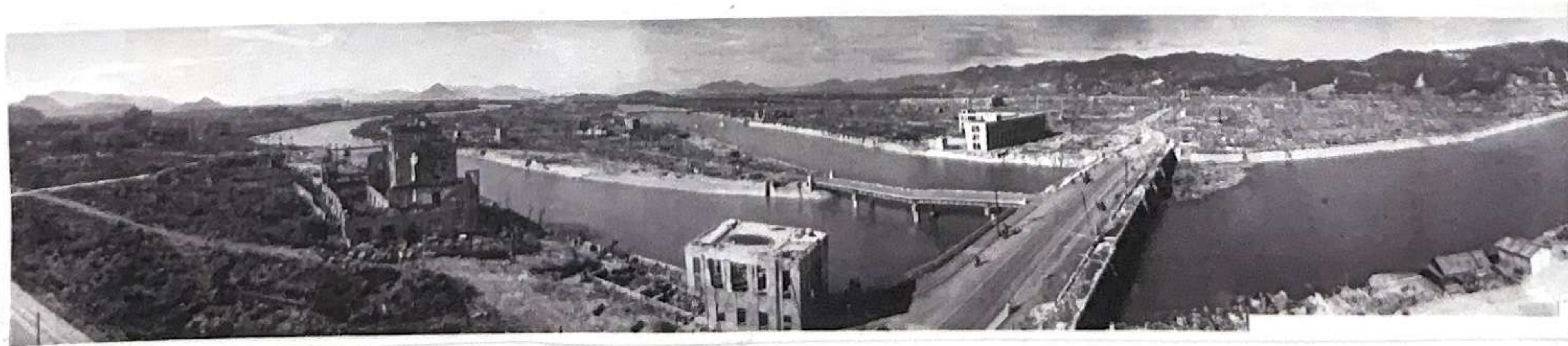
原爆の日には原爆ドームの中にいた全員死亡したと伝えられていたことを知り、悲しくなりました。たった一発でたくさんの方が命をおとしてしまったことを知って、じがいたいです。



被爆者の証言

田中聡司さん

田中聡司さんは1才の時に広島で被爆。自分たちと同じ体験を他の人にさせてはならないと言っていたところが印象に残りました。



平和記念公園内の 碑めぐり

原爆供養塔

性別や名前の
わからない7万柱
もの遺骨がおさ
められています。



「身の回りにあるもので
さだこさんが折ったつる」

原爆の子の像

佐々木さだこさんは入院中に、つるを千羽折れば幸せがやってくる、と来ると聞き、回復を原負、てつるを折り続けましたがい、亡くなってしまいました。これをき、かけに同級生たちが平和を築くための像を作ろうという運動を始め、わずか1年で全国からの募金が集まり原爆の子の像が完成しました。

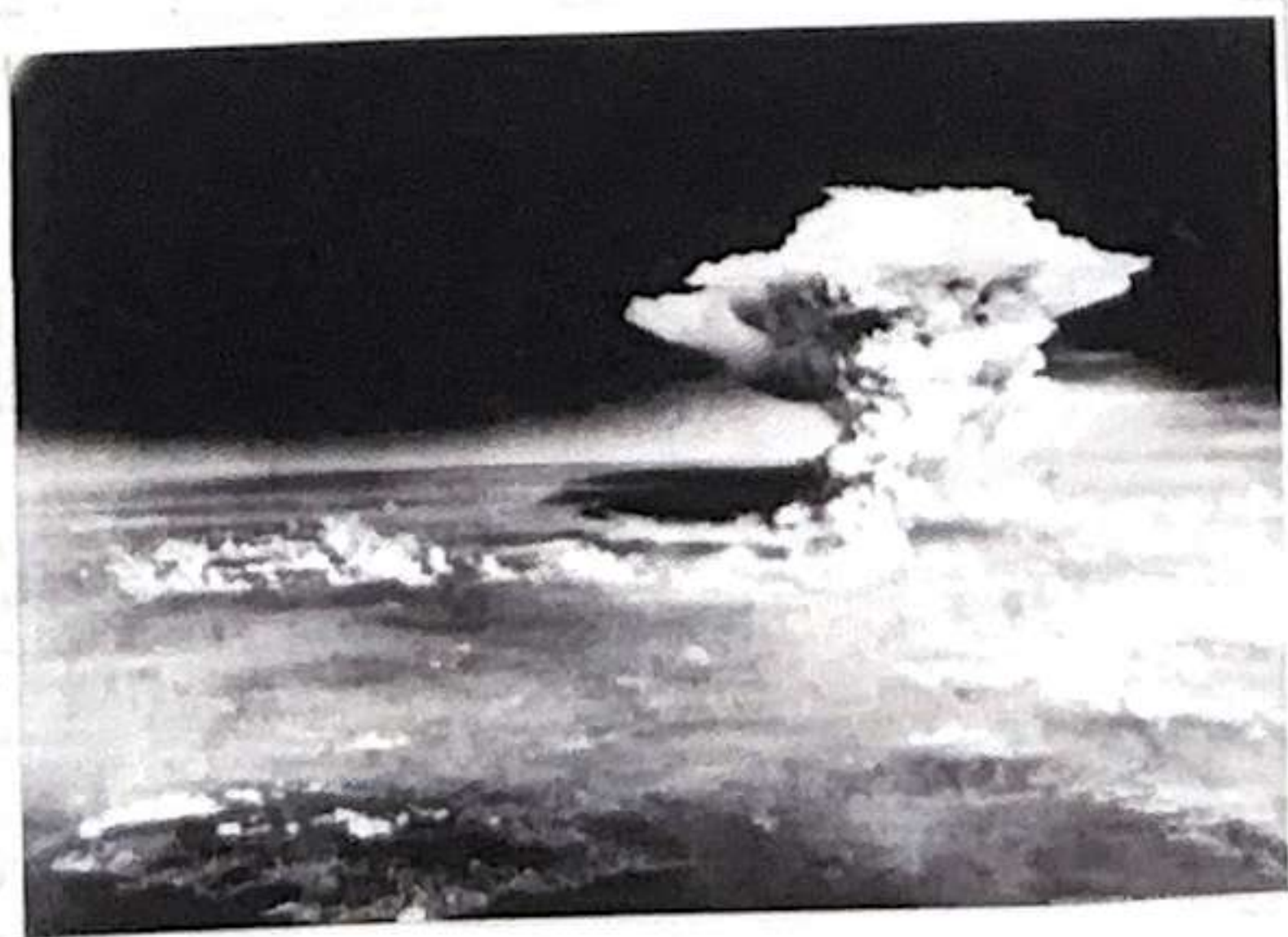
平和の灯



1964年8月1日に点火されて以来ずっと火然え
続けています。核兵器が地球上から姿を
消す日まで火然やし続けようという意味が
こめられています。

世界には核兵器をもっている国がまだたくさん
あります。核兵器がない平和な世界になり、早く
平和の灯の火が消えるといいなと思います。

広島の
原子雲

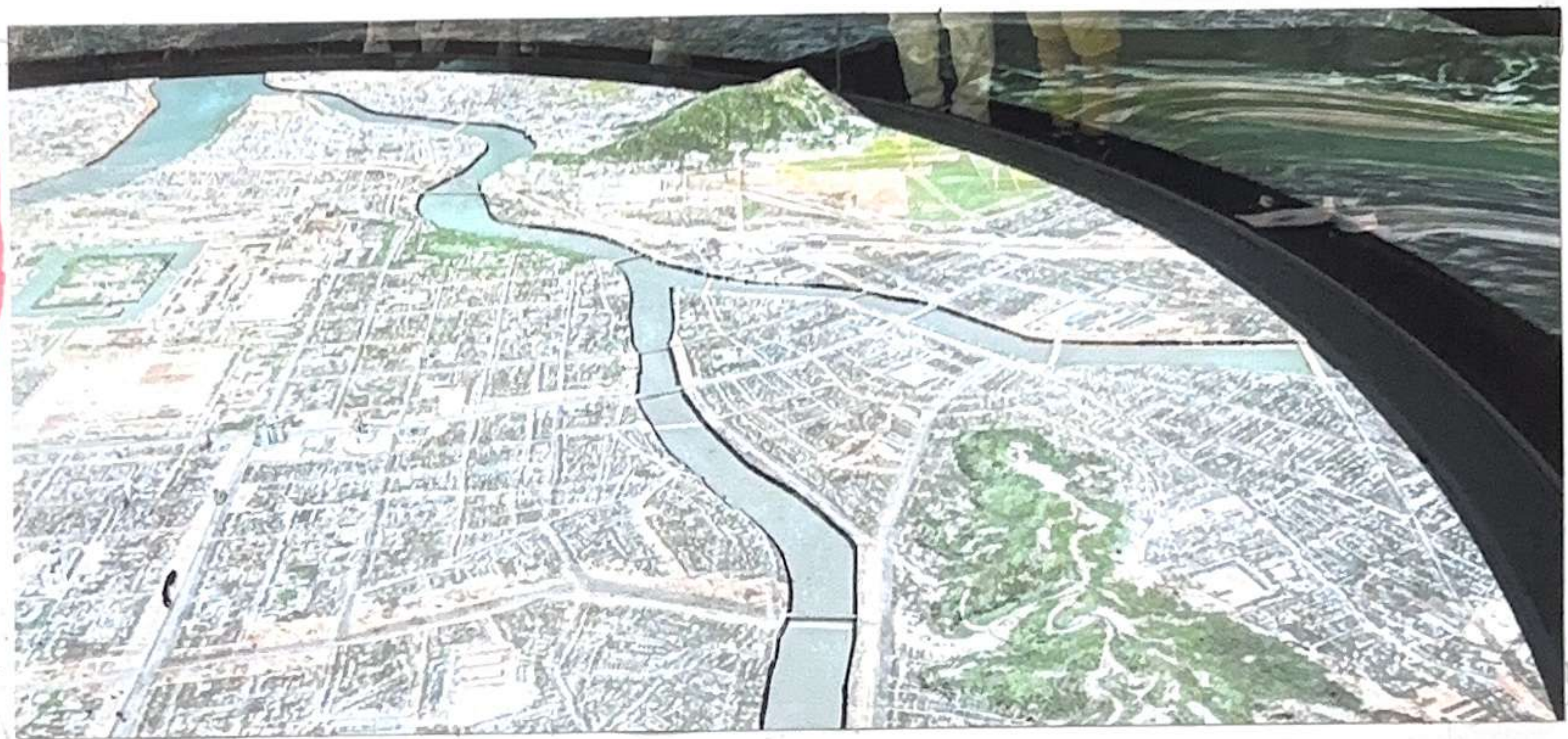


平和記念資料館



立体模型

被爆の瞬間
の街の映像が
見られました。



人影の石

銀行の開店前に階段に
すわっていた人は、近くで
原爆が炸裂してその場で
亡くなりました。強烈な熱
線により階段は白、ぼろ
く変色し、すわっていた部分が
影のように黒くな、て残った
ことがとてもおどろきました。



ここに人が
すわっていました。

虹のひろば

ステージでは、朗言読、合唱、書道パフォーマンスなどを見ました。朗言読では、話を聞いていると原火暴が落ちた音と主人公の家家族が亡くなりそうだったところがすごく小怖かったです。書道パフォーマンスでは、平和な世界にしようという気持ちがとても伝わりました。みんなのひろばで「平和」という字を書いてきました。平和の合唱に参加したり、1年後の自分に手紙を書いたりいろいろな体験ができました。改めて、平和についてよく考えようと思いました。



過去に学び、
未来へつなぐ

平和とよりよい生活のために

平和記念式典

荷物チェックをするのとそのときにまだ「飲んでいないペットボトルのふたをあけて飲んで」と言われたことにおどろきました。暑さ対策のために冷たいおしぼりを配っていました。私は式典中に4回もらいにいきました。そのおかげで熱中症にならないで見ることができたのだと思います。

入口でつけたリストバンド

2026 HIROSHIMA
PEACE MEMORIAL CEREMONY

荷物チェックの長い列



折りづるタワー

自分で折ったつるを落とすところにたくさんのつるがあつておどろきました。12階から18階まですべり台でおりました。すべるスピードが速くてとても楽しかったです。

みんなの想いが
積み重なり
未来へつながっていく

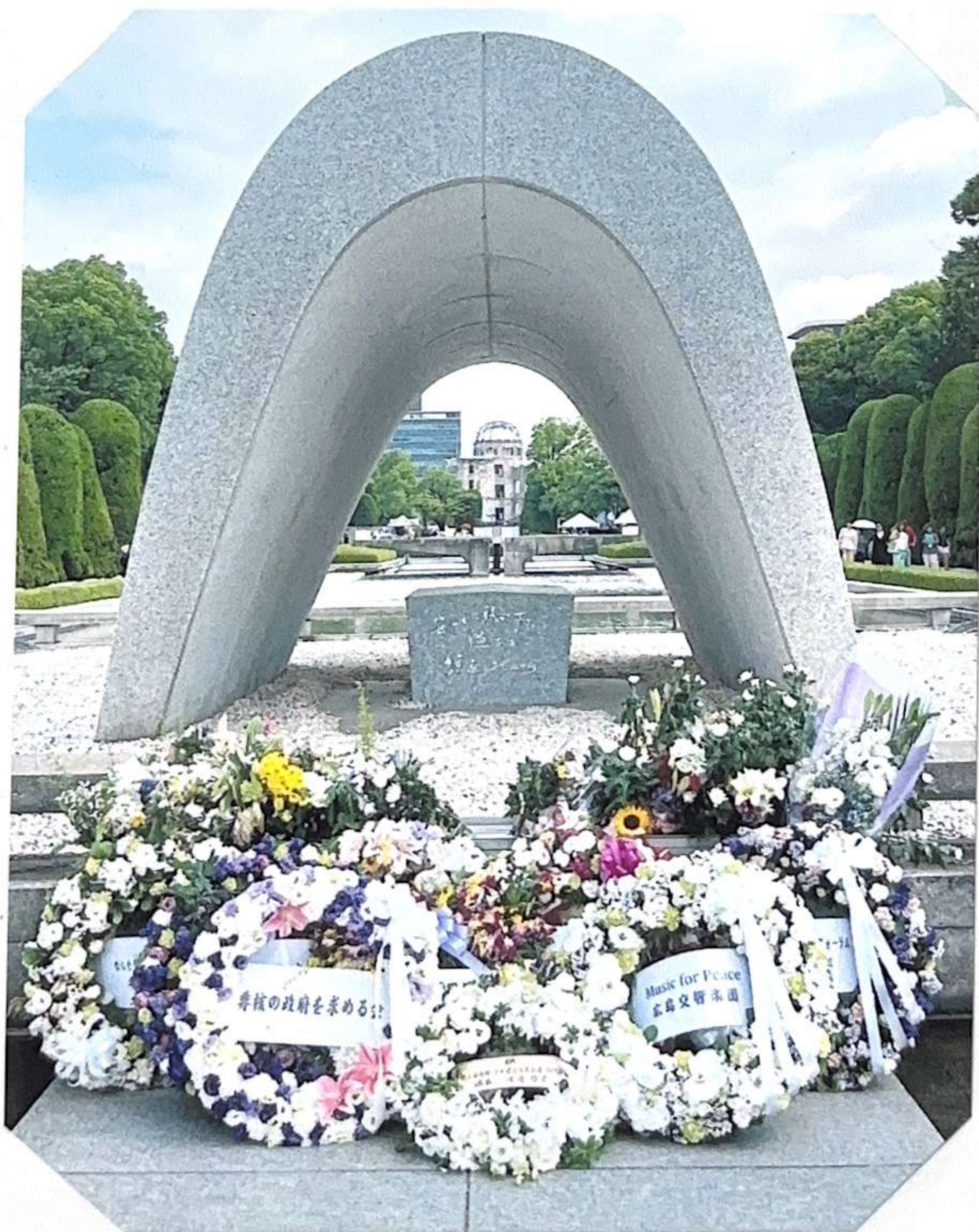


まとめ

私は「ピースアクションinヒロシマ」に参加して、戦争や核兵器がすごく怖いと思いました。戦争は色々対よくないことです。戦争は意味がないと思います。

世界には今だに戦争をしていたり、核兵器を持っていたりする国があります。そのような国でも、平和についてよく考えてほしいです。なぜ戦争をするのか、なぜ核兵器が必要なのかよく考えてほしいです。戦争はいいことではありません。

何年たっても一人ひとりが戦争について知り、平和について考えることが大切だと思います。そして、戦争も核兵器もない平和な世界にしたいです。



ピースアクション in ヒロシマに参加して

今回、ピースアクション in ヒロシマに参加したきっかけは娘の強い希望があったからです。娘は歴史が好きで、これまで戦争資料館や防空壕、靖国神社など色々な所に2人で訪れました。本当は去年、ピースアクションに参加したかったのですが、去年は日程が合わず断念しました。今年は参加が叶い、とても嬉しかったです。私も子供の頃、はだしのゲンや井伏鱒二の「黒い雨」を読み原爆の恐ろしさは知っていましたが、広島に行くのは初めてのため、娘と一緒にたくさんのことを学びたいと思いました。

1日目は分科会と碑めぐりに参加しました。昔は平和記念公園内にたくさんの家があり、映画館もあったこと、そして原爆ドームがレンガ作りのおしゃれな建物だったことを初めて知りました。あんな大きな建物が一瞬で吹き飛ばされてしまうなんて、なんて凄まじい爆風だったのだろうと思いました。

2日目の原爆資料館はパネルや写真、展示品が多く、じっくり見ていたら時間が足りなくなっていました。原爆で亡くなった子どものほとんどが建物疎開の作業に従事していたことは初めて知りました。亡くなった人達の写真を見て、「原爆がなければ、これからもずっと人生が続いてたくさんの可能性や明るい未来があったのだ」と思うとやるせない気持ちになりました。

虹の広場では、原爆水頭症のパネルを見ましたが、母親の胎内で被曝すると知的障害などの障害が出てしまうと聞いて、改めて原爆は恐ろしいと思いました。核兵器の恐ろしさは一度使って終わりではなく、その後、惨状をもたらし続けるという点です。被爆したせいで、何十年後かにがんになったり、差別を受けたりと生き残った人達も大変な人生だったと思います。

「被爆者が描いた原爆の絵を街角に返す会」では去年、19年ぶりに平和記念公園に絵碑が建設されたというお話を聞きました。「最近では反対派の意見もあり、絵碑を新しく建設するのは難しい。」とおっしゃっていました。様々な意見がありますが、近い将来、原爆の惨状を伝えられる人達がいなくなり、戦争も原爆も経験したことのない世代だけになります。原爆を経験した人が描いた絵は当時の惨状を知ることが出来る貴重な資料です。核兵器を使ったらどんなことになるのかを伝え続けていくためにも、このような絵碑を残していくことは大切だと思いました。

今年の平和記念式典には121か国の国・地域が参列し過去最多とのことでした。また、たくさんの外国人も来ておりびっくりしました。それだけ原爆への関心が高いのだと実感しました。市長の平和宣言は言葉に重みがあり、世界平和を願う気持ちが伝わってくるスピーチでした。現在も多くの国が核兵器を持っていますが、もう二度とこんなものが使われてはいけなくと強く思いました。

今回、ピースアクションに参加して多くのことを学ばせて頂きました。本やインターネットの知識からは得られない、広島に行ったからこそ得られた学びがたくさんありました。これからも、娘と一緒に戦争や平和について考えていきたいと思っています。3日間引率して頂いたパルシステム千葉の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

ピースアクション in ヒロシマに参加して

今回、ピースアクション in ヒロシマに参加して沢山のことを学びました。今まで、原爆のことは教科書や動画で知っていましたが、実際に広島に行ってみたら知らなかったことが沢山ありました。

一日目は、文科会に参加し、その後、碑めぐりをしました。平和記念公園には思っていたよりいろんな碑がありました。一番印象に残った碑は、「原爆の子の像」です。



原爆の子の像は、佐々木禎子さんがモデルになっています。佐々木禎子さんの死をきっかけに同級生が像を作ろうと全国から募金を集め、像が完成しました。同級生達の行動力がすごく、平和を願う気持ちが伝わりました。



平和の灯も印象に残りました。平和の灯は、核兵器が無くなるようにとの願いを込めて火が燃え続けています。雨の日も燃え続けているのはすごいと思いました。

二日目は、原爆資料館に行きました。原爆資料館が最も衝撃的で印象に残りました。一番印象的だったのは、被爆者の描いた絵です。被爆者の描いた絵は、当時の状況やどれほどひどかったのかがよく伝わってきました。黒焦げなった弁当箱の展示は衝撃的でした。



このお弁当箱は、当時中学1年生の男の子が持っていたものです。男の子は建物疎開の作業をしている時に被爆し亡くなりました。お弁当を楽しみにしていたのに食べられずに亡くなり、本当にかわいそうだと思います。

三日目は平和記念式典に参加した後、おりづるタワーに行きました。平和記念式典に参加出来たのは貴重な経験でした。式典にはたくさんの人が来ていて、外国人もたくさんいました。外国人が広島に興味を持ってくれるのはとてもうれしいことです。おりづるタワーではおりづるを折って、ガラス張りの壁におりづるを投げ入れました。おりづるタワーの屋上展望台は、広島の街が一望出来て、良い眺めでした。



広島に行くのはずっと前からの希望でした。現地でしか体験出来ないことや学びが沢山ありました。平和だからこそ、友達に会えたり、学校に行ったり、おいしいご飯を食べたり出来るのだと思いました。これからも戦争と平和について学んでいきたいと思っています。

ピースアクションinヒロシマに参加して

戦後八十一年の今年、初めて広島を訪れることができました。広島駅周辺は驚くほどの大都会、交通網が発展していました。路面電車は被爆後三日で運行再開、当時は出兵で男性がおらず、多くの女学生たちが車掌として働いていたそうで、乗車できたことは感慨深いものでした。

初日に日本被爆者団体協議会原水爆被害者団体協議会の田中聰司さんの証言を

聞けたことはとても貴重な体験となりました。

被爆した方の実体験を直接聞けなくなる

ことは確かです。証言を聞けたからこそ、シ

ンプルに戦争反対・核断絶をバから願います。

夕方の碑めぐりは被爆二世の方のお話を伺い

ながら、平和記念公園内を歩きました。この

地が一瞬にして焦土と化したとは苦しすぎる

現実です。全壊を免れた原爆ドームは奇跡、

もの言わぬ被爆者としていつまでも残してい

く必要があると感じました。

新しい平和記念資料館は想像していたよりも息子が受け入れやすく、デジタルを駆使して分かりやすくストリートに、戦争の悲惨さや惨さを伝えてくれました。また当時、留学という名目で日本に暮らしていた東南アジアの方々の被爆を初めて知り、現代の技能実習制度と重なって何とも言えない気持ちになりました。

虹のひろばで嬉しいことがありました。息子がお腹の中にいた頃から聞いていた「青い

空は」がオーピングで歌われていたことで。夏になると鶴を折って飾り、畑の野菜や小麦で作ったすいとんをいただき、戦争にまつわる絵本を読んでもらい、母たちが平和を願って子どもたちに歌を歌う、そんな一日を一年に一度、小学生になるまで過ごしていました。今年姉のピンチヒッターでピースアワシヨンに参加、これもご縁と感じます。

この世界では戦いが絶えず、この瞬間にも苦しみ悲しんでいる方々がいます。私が今こ

うして平和について落ち着いて考えられると
いうことは幸せなことです。この日常に感謝
をして丁寧に過ごしていきたいと感じます。
そして、戦後がいつまでも続いていくように
世界で今もなお続いている戦いが終わること
を願っています。

ピースアクションヒロシマに参加して

一番いんしゅにのこったことは、広島平和記念資料館で見た原爆が投下される前と復の町の様子が分かるCGアニメーションです。このツアーに参加して思っことは原爆ドームや色々な物を見て、戦争は何かあってもやたらいけないという事です。核と原爆をしようすることは絶対にしたらいけないし、作ってはいけないと思いました。

日蓮宗

分科会であかっことは原爆ドームに色々な名前があっただです。一つは物産陳列館^{ナニモノショウザン}です。また、物産陳列館^{ナニモノショウザン}で、2つ目は産業奨励館^{サニョウリキカン}です。

列館時代の一九一九年にバームクーヘンをカール・ユリハイムがはじめて販売しました。

虹の広場。虹のステージでは、安田女子高の書道バフォーマンスが迫力まん点でした。

色紙に一文字好きな漢字を書かせてもらいました。また、友という字を書きました。また、広島に行くときは家族で行きます。



ピースアクション in ヒロシマ

被爆81年「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現を！！

2026年8月4日～6日

レポート作成者

今回のプログラム

1日目：室内碑めぐり、被爆の証言、平和記念公園の碑めぐり



（室内碑めぐりにてお話しくださった新谷さん）

涼しい室内で広島歴史、原爆の落ちた日のこと、その時の人々の様子やその後大変だった暮らしなどを詳しくお話しいただきました。

お話の途中では心が締め付けられるような場面もありました。

途中途中でクイズもしていただき、子どもたちが飽きないようにお話しくださいました。



（原爆死没者慰霊碑）



（ガイドの林さんと子どもたち
原爆の子の像にて）



（原爆投下前と現在の様子）

平和記念公園へ移動して、ガイドの林さんと碑めぐりをしました。

林さんは原爆二世とのことでした。お父様は生前あまり戦争、原爆のことを話すことがなかったそうですが、70歳を過ぎたころに後世へ語り継がなくてはという思いでお話されたそうです。とても苦しい思いをされ、その経験を話すのは大変なことだったと知り、このように語り部としての活動をしてくださっていることに感謝の思いです。

とても暑い中、ありがとうございました。

2日目：平和記念資料館見学、虹のひろば



(平和記念資料館)



(原爆で亡くなった折免滋さん、13歳
建物疎開の作業中に被爆した)

平和記念資料館には悲惨な絵、文献、写真、遺品があり、見学中に何度も心が締め付けられる思いになりました。

今後、同じことを繰り返さない、子どもたちが平和に暮らせる世の中であってほしいと強く思い、わたし自身に何ができるのか考え行動しなくてはいけないと思いました。



(朗読してくださった紺野美沙子さん)



(VR体験中の息子
原爆が投下される場面を見ている)

昼食後に体育館へ移動して「虹のひろば」に参加。

高校生の書道パフォーマンスや合唱団の発表がありました。この合唱団の中に昨日お話しくださった新谷さんも参加され、歌を歌われていました。

わたしが特に印象深く残ったのは、紺野美沙子さんの朗読です。原爆で子どもを亡くされたお母様の手記を読んでくださり、同じ母親として、とても悲しい気持ちになりました。最後は息子がVR体験をさせていただき、原爆投下前の広島から、リトルボーイが投下される瞬間、原爆投下後の広島の風景を見たそうです。

3日目：平和祈念式典参列、おりづるタワー



(8月6日 8:15 平和祈念式典参列)

全員で平和記念式典に参列しました。

広島市長の平和宣言はじめ、内閣総理大臣（高市首相）、国連事務総長のあいさつがありました。

その中で、こども代表のお二人（小学六年生）が平和の誓いをされたのですが、とても立派にお話しされていて感心しました。



(おりづるタワー)



(滑り台で降りてくる様子)

式典参列後は近くの「おりづるタワー」に上りました。

最上階まで行くと広島市内を一望することができ、広島城も見ることができました。

室内では折り鶴を折って、タワーの一部として残すことができます。

息子は最後にエレベーターを使わず、滑り台を使って降りていました。ちなみに団長の山田さんも滑り台で降りていました。

プログラムに参加して心に残ったこと

今回のプログラムに親子で参加させていただき、ありがとうございました。

親になって学ぶ戦争、原爆は、学生時代に勉強した時の印象とは違い、子どもを亡くした親御さんの気持ちを思い、両親を亡くした子どものことを考え、戦争のない未来を作らなくてはならないと強く思いました。

特に印象に残ったお話は「建物疎開」です。

空襲の火災延焼を防ぐために建物の解体作業を行いました。その作業をしていたのが、主に12-13歳の中学生だったそうです。

8月6日、いつものように作業をしていた多くの子どもたちが被爆して亡くなりました。

建物疎開で犠牲になった子どもは6,000人を上回るそうです。

子どもたちの痛みや苦しみを考えると言葉も出ません。



わたしの印象に残った建物疎開で亡くなった滋さんのことが本になっていました。

絵本「まんが黒なおべんとう」という本です。

当時の様子が書かれており、滋さんのお母様のお気持ちも書かれています。

最後に、とても暑い中、3日間お世話になったパルシステム千葉の山田団長、藤井さん、今井さん、小名木さん、ありがとうございました！

一緒に参加されたご家族のみなさんも、ありがとうございました！

またいつか再会できたら嬉しいです。みなさんお元気でお過ごしください。

本当にありがとうございました！！

広島原爆について



ぼくは、学校の歴史の本を見て、原爆のことに興味を持ちました。

なので、実際に広島へ行って、被爆者さんたちの話を聞き、平和記念資料館に行き、原爆のことを学んできました。8月6日は平和記念式典も見学してきました。

はじめに、ぼくが調べ学習に使った本を紹介します。

	語り伝えるヒロシマ・ナガサキ 第1巻～5巻 安斎育郎 文/監修 2004年初版 寒川総合図書館
--	--

今回は広島の前爆について知りたかったので、語り伝えるヒロシマ・ナガサキの第1巻、3巻、4巻をとくに読み込みました。

夏休みは神奈川県のおじいちゃん、おばあちゃんの家に行っていたので、おじいちゃんの家から近い寒川総合図書館で本を借りました。

図書館で借りた本で事前学習をして、お母さんと一緒に広島へ行きました。

ここから、ぼくが本や現地で学んだことをまとめたいと思います。

アメリカとの戦争

1941年12月8日、日本軍がハワイのパールハーバーにあったアメリカ太平洋艦隊の基地を攻撃したことによって「太平洋戦争」がはじまりました。

日本は東南アジアや太平洋の島々を支配しようとしたが、1942年6月にミッドウェーでアメリカ軍に敗れ、1944年7月にはサイパン島の部隊も全滅しました。

1945年3月10日には東京大空襲が occurred。300機の爆撃機で東京に爆弾を投下して、10万人が死にました。

さらにアメリカは沖縄に上陸して、地上戦が行われ20万人が死にました。

とどめをさすように1945年8月6日、広島に原爆を落とし、8月9日、長崎に原爆を落としました。

1945年8月15日、天皇が国民に終戦を告げました。

原爆投下前の広島と投下後の広島



写真はぼくが撮りました。

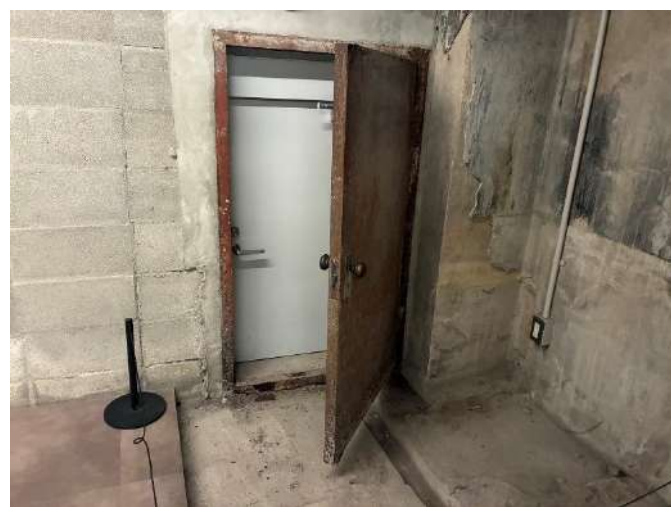
手前が原爆投下前の原爆ドーム
（当時は広島県産業奨励館）

奥に移っているのが、原爆投下
後の現在残っている原爆ドーム
1998年に世界遺産に登録さ
れました。

原爆投下前の広島は広島城の城下町として栄えていました。

昭和時代は東京に第1総軍司令部、広島に第2総軍司令部をおき、戦争を指揮
しました。さらに中国地方の行政最高機関「中国地方総監府」もおかれ、広島
は西日本の中心地でした。

原爆ドームは、昔は広島県産業奨励館という名前でした。チェコ人の建築家ヤ
ン・レツルさんの設計です。広島の名産品や美術品を販売、展示していまし
た。



平和記念資料館にて撮影
しました。

原爆の熱風で変形した扉

1945年8月6日午前8時15分、広島の上空で原爆が投下されました。

その原爆はリトルボーイと呼ばれ、長さ3 m、重さ4 t（ゾウ4頭分）の大きさがありました。リトルボーイは上空600 m付近で爆発し、一瞬にして広島市を破壊し、多くの人々が死傷しました。

爆発後は3000～4000度の高温が数秒間続き、黒い炭のようになった遺体が転がっていたそうです。体の皮膚が溶けて垂れ下がり、全身やけどで熱くて水を求め、川に人が集まりました。その多くの人たちが亡くなってしまったそうです。



折免滋さん

建物疎開中に被爆して亡くなってしまった。13歳だった。

真っ黒なお弁当が印象に残りました。

平和記念資料館に展示されている、折免滋さんの真っ黒なお弁当です。滋さんは建物疎開の作業中に被爆して亡くなりました。

ぼくは建物疎開を知らなかったので調べてみました。

建物疎開とは、建物を壊すことです。アメリカ軍が爆弾を落として町が焼けてしまっていたので、さらに焼け広がるのを防ぐために家を壊す作業をしていました。その建物疎開の作業をしていたのが、13歳から14歳の中学生だったそうです。ぼくとほとんど年齢が変わらない人たちが作業していたことに驚きました。8月6日はいつも通り、みんなで作業をしている最中に原爆が落とされました。滋さんたちは楽しみにしていたお弁当を食べることなく亡くなってしまい、滋さんのお母さんが真っ黒に焼けてしまったお弁当を焼け野原で見つけたそうです。



折免滋さんのことが本になっていました。

平和記念資料館で販売されていたので買いました。

悲しいお話ですが、よかったら読んでみてください。



平和記念公園にある
原爆の子の像です。

2歳で被爆して、12歳で亡くなった佐々木偵子さんのために作られました。

黒い雨

ぼくは平和記念公園の碑めぐりをしたときに、原爆の子の像を見ました。

この原爆の子の像は佐々木偵子さんのために作られました。

偵子さんは2歳の時に被爆して、逃げる途中で黒い雨に降られました。黒い雨とは、ススやほこりが混じり、さらに放射能も混じった雨のことです。

偵子さんは運動が大好きで、元気に成長しました。小学6年生のときはリレーのアンカーを務めるくらい、かけっこが得意だったそうです。

被爆から10年たち、偵子さんが12歳の時に体に異変を感じて検査をしたら、白血病と診断されました。原爆の放射能による後遺症でした。偵子さんは元気になりたいと思い、鶴をたくさんおりました。だけど、偵子さんは小学6年生、12歳で亡くなってしまいます。

偵子さんのお友達が、偵子のために何かしたい！と話し合いをして、全国の小学校に募金をお願いしました。2年後、原爆の子の像が建てられることが決まりました。原爆の子の像の石碑に刻まれた言葉です。

「これはぼくらの叫びです

これは私たちの祈りです

世界に平和をきずくための」

ヒロシマを繰り返さない



原爆死没者慰霊碑

原爆犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持ちから、はにわの家型になっています。



慰霊碑の石室

安らかに眠って下さい
過ちは繰り返しませんから
と刻まれています。

ぼくは、実際に広島に行ってみて、社会の教科書ではわからない原爆の残酷さを被爆者さんたちの話を聞いてよくわかりました。この資料を一人でも多く見てもらい、原爆の残酷さを伝えていきたいと考えています。

最後に、戦争を繰り返してはいけないと強く思いました。

広島原爆新聞

8月6日の
ヒロシマ

ぼくは戦争と、原爆を学ぶために、広島へ行ってきました。そこで学んだことを新聞にします。

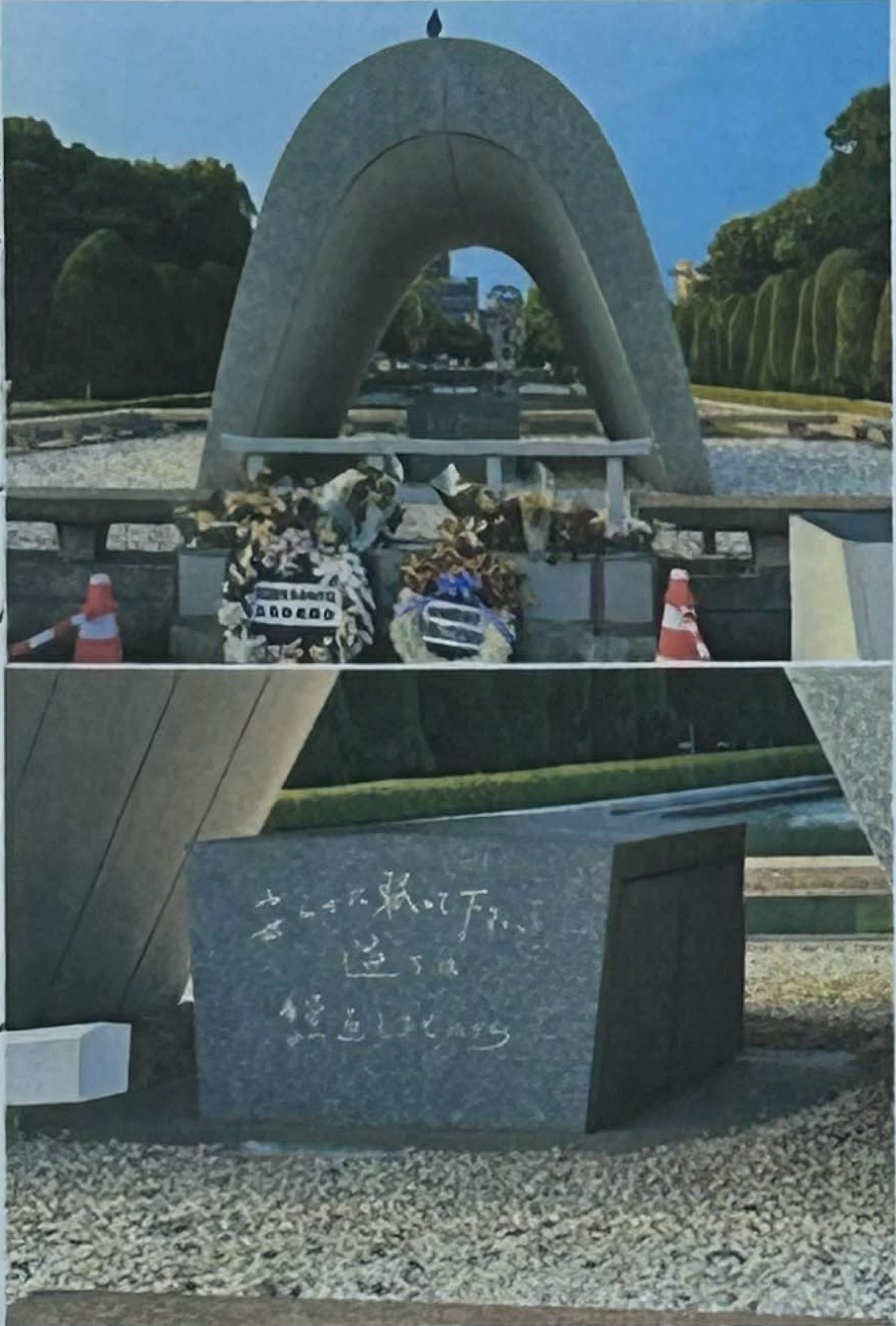
一九四二年十二月八日、日本軍がハワイのパールハーバーにあったアメリカの基地を攻撃したことで、太平洋戦争がはじまりました。

一九四五年三月十日、東京大空襲しゅうで十万人の死者がでました。その後アメリカは、沖縄に上陸し、地上軍で二十万人が七くなりました。

アメリカはとめをさすように、八月六日、広島にウラン原爆

八月九日、長崎に、ポルトラム原爆を投下して、九万人の死者がでました。

被爆者たちは、差別されたり、苦しみをいたえなかり生き延びていました。



(原爆死没者いれりひ)

(石室)

1. リトルボーイ
2. ファットマン
3. ガジェット



- ⑤ リトルボーイは広島
ファットマンは長崎
がジェットは実馬
- ⑥ 原爆前の様子(前)と
原爆後の様子(奥)

広島にサロとさめた原爆はリトルボーイとファットマンです。

長さは三、三、重さ十四、一トンの大キナーがあります。

八月六日午前八時十五分、広島市上空六〇〇mでリトルボーイは爆発しました。

広島市街は三〇〇〇、四〇〇〇度の熱で建物は焼けてしまひ、人々は水を求めて川へ逃げ込み、人だかり、黒いスミのようになつて焼け死んでしまひました。

リトルボーイが爆発後には、黒い雨がふりました。

黒い雨とは、ススな雨がまじり、さらに放射能もまじった雨のことです。

この時に被爆した植子さんは、いける中で黒い雨にかがれまじりました。

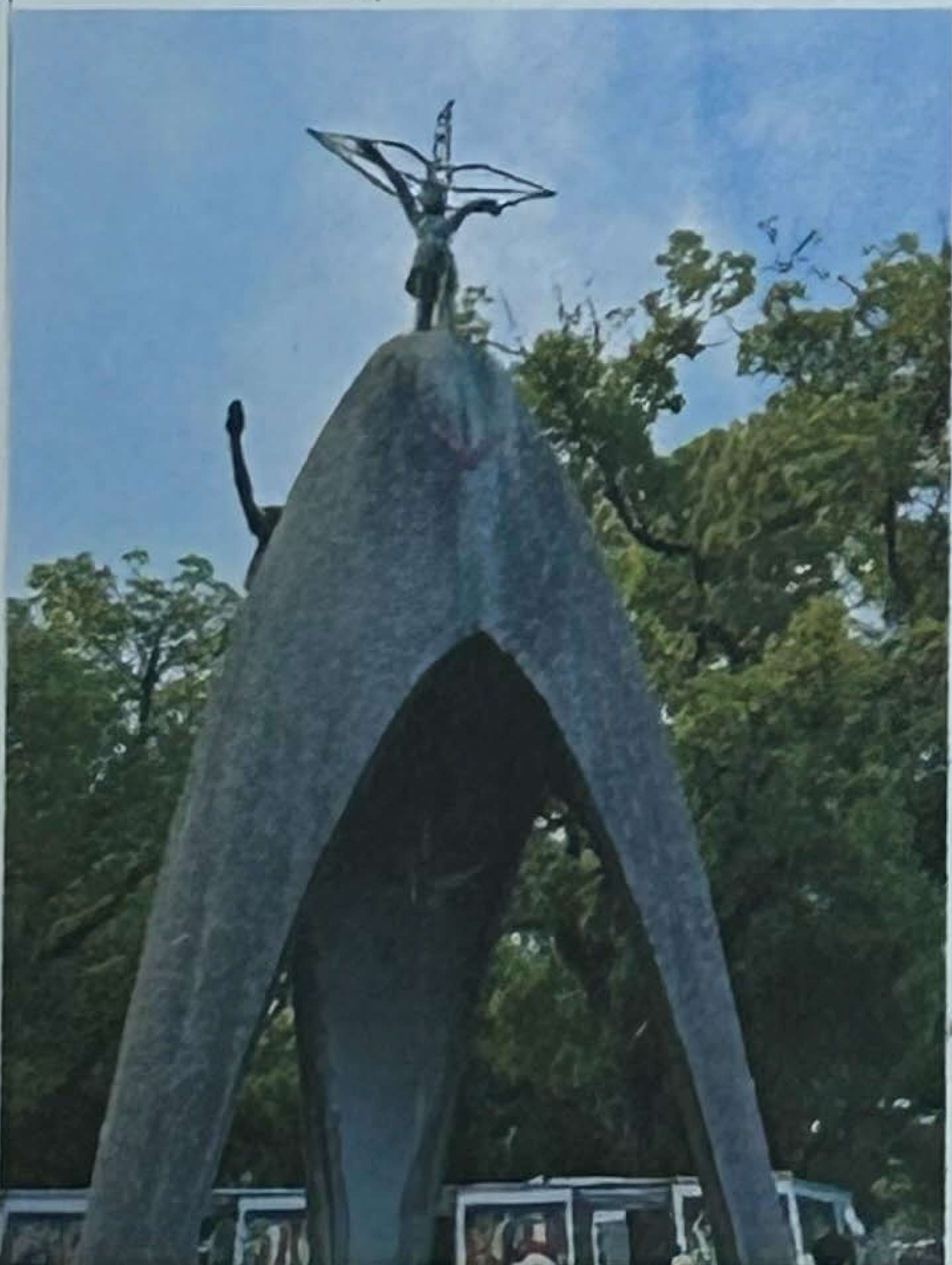
植子さんは、元気に成長し、運動会ではリレーのアシカーをやるほど、足が速かつたそうです。

被爆から十年後、体にいかなさを感じて検査をしたところ、白血病にかかっていた。植子さんは、病気が治る。

こうに、たくさんツルを折りつづけて、植子さんは、死ななかつた。

植子さんは、いまも生きています。

ぼくも同じ十才、小学六年生でいます。



植子さんの友人たちが全国から募金を集めて作った像「原爆の子の像」

グループも一緒にかがりかゝっている

同じ中学一年生

81 年前、広島で多くの中学一年生が原爆の被害にあった事を知りました。

丁度娘が中学一年生のタイミングで広島に行けた事は運命的なものを感じました。

私達は今何不自由なく幸せに暮らしていますが、81 年前広島でとても悲しく辛い思いをした中学一年生がいた事は知っておくべきだと思いました。

正しい知識を学ぶこと、そしてそれを正しく広め、二度と同じ過ちを繰り返さないようにすることが幸せを継続していくことなのではないかと感じました。3 日間、良い体験になったと感じます。



↑ 折免 滋さんの黒焦げの弁当

当時は 13 歳だった



↑ 建物疎開の様子

中学 1、2 年生が担当した

ピースアクション in 広島 で学んだこと

・平和の時計塔

8時15分に毎日(8月6日を除く)鳴る

・原爆ドーム



もとの名称は広島県物産陳列館(1915年創設)で、銅の屋根がきれいな建物だった

投下された爆弾…リトルボーイ(長さ3m、重さ4.1t)と呼ばれ、上空約600mで爆発した

・原爆供養塔



名前のわからない人の骨が7万以上収められており、毎年遺骨の受け取り先を探している

穴から中に入ることもできる

〈感想〉 実際にその場で遺産を見ることで、原爆や戦争の悲惨さを改めて知れて良かったです。同じ中学生が被害を受けたのをみてとてもショックで悲しかったです。これから私たちがすべきことを考えていこうと思いました。